

令和6・7年度 研究主題

身近な自然に興味や関心をもち、 関わって遊ぶ中で、好奇心や探究心を育む

幼児は、身近な自然に触れて美しさや不思議さに心動かされ、「何かな」「面白そう」と様々な事象に興味や関心をもつ。そして、好奇心をもって関わり、自分の遊びや生活に取り入れながら、新たな気付きや発見を繰り返す中で、「なぜだろう」「もっと知りたい」と考えたり試したりしながら主体的に関わり、探究していく。このように、自然の事物や事象について関心をもち、感動する体験をしていくことは、小学校の生活や学習における基盤となると考える。しかし、日常的にIT機材を利用している昨今においては、自然と直接触れ合う機会が減少している。

そこで、本研究部では、身近な自然に自ら関わる幼児の姿から、どのような事象に興味や関心をもって遊ぶのか、その遊びを通して、好奇心や探究心を育むには、どのような環境構成や働きかけが大切であるのかを探っていきたい。

8園で共同研究をしています

伝法 三先 姫島 野里 大和田 西中島 田川 新高

第1回 研究部会 令和7年5月21日（水） 会場：三先幼稚園

- 内容
- ・1年目の振り返りと2年目の研究の進め方について
 - ・部員の自己紹介と各園の2年目の研究の取組について
 - ・指導主事からの講話

2年目の研究の進め方について

- 1年目の年度末にまとめたパワーポイントを見て、1年目の研究について振り返る。
- 主題の『探究心』は『探究する』と捉えると、考えやすくなる。子どもたちが探究する過程に着目する。
- 幼児なりの問いを読みとり、自ら調べたり、より関わって深めたりする姿を読みとる。
身近な自然に興味や関心をもち、繰り返し関わって遊ぶ中で、好奇心や探究心につながる環境構成や教師の教育的意図をもった働きかけ（言葉をかける、見守る など）を中心に研究を進める。

2年目の研究の取組について（各園の意見より抜粋）

- 幼児の実態把握を行い、幼児の心の動きを見逃さず、教職員間で幼児の姿について話し合ったり、共通理解したりする
- 園内の環境を生かし、身近な自然にいつでも触れられる環境や発達段階に応じた環境を整える
- 日々の保育の中で、環境の見直しや再構成を子どもと一緒に進めていく
- 保育の継続性を大切にし、見通しをもって保育を進める
- 好きな遊びの中で自然物を取り入れ、自然と関わって遊ぶ時間を十分に保障する
- 教師自身の感性を豊かにし、園内の自然環境を教師が意識して保育を行う
- 気付いたことや感じたことを子ども同士で伝え合い共有する機会をもつ
- 自然の移り変わりを意識し、タイミングを逃さずに環境を整えたり、教材研究をしたりする
- 幼児が感じたことを丁寧に受け止め、思いを認めたり、共感したりなどの働きかけをする

講 話 講師 大阪市総合教育センター 教育振興担当 基本研修グループ 指導主事

- 探究心を育てるには、幼児のつぶやきをひろったり、日々の丁寧な見取りを通して、タイミングを逃さず言葉かけたりすることが大切である。新たな疑問から課題設定、情報収集、整理、分析をし、まとめていく。
- 環境構成で意図的に出会わせたり、ICT 機器を使ったりするなど深い探究心をもった次の活動につなげる。小さな疑問から関心をふくらませ、大切に育てていくことが環境構成として大切である。
- 感動を形にするような体験をさせ、遊びに没頭し、振り返り、共有することで次の探究心をつくるのではないかな。
- 教師ができることは、
 - ①興味、関心を感じる世界を身近に提示…タイミングよく、どんな声かけをするかを工夫する。
 - ②幼児の世界を広げる環境の工夫…経験しなかった驚きの場に出会わせることができるようにする。
 - ③自由さの保障…十分な時間や空間の確保や、使いたいものを準備し、幼児が何をしてもいい自由を保障する。
 - ④教職員のみinnで共有…園に関わるすべての人で共有することで別のアイデアが生まれ、幼児の疑問をもつ姿が継続する。
 - ⑤教師自身が自然の不思議を探究…心から自然を大好きになり不思議を探究していく。
- 教師自身がワクワクの瞬間を幼児と共に見つけて楽しむようにすることが大切である。
- 幼児への声かけは言葉の内容や、タイミングなどをいろいろと試し、「知りたい」を生む「働きかけ」の工夫をすることが必要である。
- 「探究」のための環境構成は、一人の小さな疑問を広げ、関心をもつ、やってみる、没頭する、また疑問が生まれるという螺旋の様に継続していくことができる環境を工夫する。
- 探究活動は幼稚園から高等学校まで途切れることなく続き、幼稚園は生涯に渡って生きる土台をつくっている。これからも探究を続けていける幼児を育てていくと共に、探究する楽しさ、すばらしさを体験できるように、研究を進めてほしい。



学んだこと

- 教師自身が自然に関心をもったり、探究をしたりして、幼児とともに好奇心をもって関わっていくことが大切だと再確認した。
- 幼児期は探究の土台をつくる大切な時期なので、幼児が探究する楽しさを感じられる経験ができるように働きかけを探っていくことが必要だと学んだ。
- 幼児が自然に関心を持ち、探究する姿につながるように、タイミングよく言葉をかけたり、幼児の実態に合わせて環境を整えたりするなどの教師の働きかけを探っていきたい。